



1 自主防災会の防災訓練。「毛布くるくる法」と名付けた毛布を使った搬送訓練。
 2 素早く手渡すバケツリレー。3 訓練に最後まで参加した人には修了証を贈呈。
 4 充滿する煙を体験。5 訓練の終わりに
 は敬礼して挨拶。6 JRのコンテナを使っ
 た北永井2区の防災倉庫。7 高層マンシ
 ョンの多いみよし台1区の階段搬出訓練。
 8 9 アルファ米の炊き出し訓練。



です。「孤独死」や「無縁社会」な
 どのキーワードがニュースで報
 じられているように、近所付き
 合いが疎遠になりつつある現代
 社会。地域との関わりが薄れて
 いく中で、もし災害が起きて、
 自分や家族の備えが尽きてし
 まったら……。頼るのはやはり
 地域の力ではないでしょうか。
 1995年の阪神・淡路大震
 災の際、倒壊した家屋から誰に

救助されたかを見ると、自力・
 家族の「自助」が66.8%、友人・
 隣人の「共助」28.1%で、救
 急隊の「公助」はわずか1.7%
 でした（出典：日本火災学会）。

共助で高まる防災力

限られた人数で対応する「公
 助」には限界があります。自分
 で備えて自分の命を守る「自助」
 ももちろん大切です。そこに地
 域とつながり助け合う「共助」



藤久保3区自主防災会の子ど
 も防災訓練で、西内会長お手
 製の水消火器で射抜いた
 子どもの様子。的まで一直線
 にコントロールされた放水は
 見事という他ありません。

「共助」で備えを強化する。
自主防災組織
 災害から地域を守る「共助の要」自主防災組織。地域の仲間
 でつくる絆は立派な備えとなって、地域防災を形成します。

私の行政区・自治会は？

町には上富第1区～みよし台第
 1区まで14の行政区があり、多
 くの自治会はこの行政区に加入
 しています。加入方法がわから
 ない人、加入を検討し
 ている人は右のQR
 コードから町HPへ。

三芳町には、毎年約1500
 人が転入し、新たに三芳町民と
 なっています。防災は一人では
 できなくても、地域の仲間がい
 ればできることがたくさんあり
 ます。これから地域との関わり
 を持ちたいと考えている人は、
 行政区・自治会へ加入してみ
 てはいかがでしょう。



まつりで御輿を担ぐ人たち。この笑顔は、地域
 のつながりから生まれてくるのかもしれない。

Volunteer Fire Corps's Voice
地元消防団の声



三芳町消防団 団長
鈴木 秀幸 さん

三芳町出身。平成12年
 に消防団へ入団。家族の
 理解と協力のもと消防活
 動を続け、今年入団20
 年目を迎えた。今年4月、
 三芳町消防団団長に就任。

**日頃から
 いろいろなシミュレーションをしておく**

平成28年の新潟県糸魚川市の大規模火災で1人の死者も出さな
 かったのは、普段からの近所付き合いにより、声を掛け合い連携し
 て避難できたことが大きな要因だといいます。また、それ以降同地
 域では火事が激減しています。どの災害にも言えることですが、地
 域との関わり方と防災への意識の持ち方で、被害を減らすことはで
 きると思います。昼か夜か、在宅時か外出時か、日頃からいろい
 ろなシミュレーションをして備えておくことがとても大切です。



藤久保3区自主防災会会長
西内 一夫 さん

「防災＝地域のつながり」
 住民交流と催し物をたくさん行
 い、「3区は楽しい所」と思っ
 てもらうための一環として自主防
 災会を結成しました。地域のつ
 ながり・絆をつくるのも備えです。



みよし台1区自主防災会防災委員長
木山 正吾 さん

「地域特性を活かす」
 マンション住居者かつ高齢者
 が多い地域特性に沿って、自
 主防災会報等での有効情報発
 信や役立つ防災訓練内容、行
 事の推進を心掛けています。



北永井2区自主防災会会長
渡邊 泰弘 さん

「72時間は生き延びよう」
 防災は自助、共助、互助が大
 切です。公助が来るまでの目安
 は72時間。その間を生き延び
 するためには、日頃の備えや訓練、
 地域での助け合いが大事です。

**自主防災会を
 引っ張る人の声**

三芳町には、北永井2区や
 みよし台1区、藤久保3区
 など、7つの行政区や自治会
 が自主防災会を結成していま
 す。地域を愛し、人一倍の熱
 意と工夫をこらして長年地域
 を守る活動を続け、自主防災
 会を牽引してきた3人の防
 災メッセージです。

自 自主防災組織（自主防）
 というのをご存知で
 しょうか。災害から
 地域を守るため、自主的に防災
 活動を行う地域住民でつくる組
 織のことです。三芳町では「自
 主防災会」と呼ばれ、地域で
 人も子どもも守るために、防災
 訓練や備蓄品の整備など定期的
 に活動を行っています。

2011年の東日本大震災で
 は、様々なところで活躍したと
 いう自主防災組織。地域住民同
 士の連携を活かしていち早く住
 民の安否確認や避難誘導を進
 め、迅速に避難を完了させたり、
 想定外の人数が押し寄せた避難
 所で備蓄品の使い方や生活ルー
 ルを伝えて避難所運営をサポート
 したり。自主防災組織は、地
 域で地域を守る「共助の要」と
 して力を発揮しました。

自助・共助・公助

防災の考え方には、自分や家
 族を自らで守る「自助」、地域
 の人々が協力して助け合う「共
 助」、公的機関が対応する「公助」
 の俗にいう「三助」があります。
 その中で、近年特に強化が期待
 されているのが、自主防災組織
 や消防団に代表される「共助」